

# 斜里岳の森林植生について(1)

—熊見峠のハイマツそう林—

斎藤新一郎<sup>1</sup>・松田 功<sup>2</sup>

1. 079-01 美瑛市光珠内町東山 北海道立林業試験場
2. 099-41 北海道斜里郡斜里町本町41番地 斜里町立知床博物館

## まえがき

斜里岳は、道東地方の名峰のひとつであり、登山もかなり盛んであるらしい。しかし、この山の森林植生の調査記録は乏しくて、高山植物のリスト(川代、1963)、植物の垂直分布(安座間ほか1985)などがあるにすぎない、とみられる。

筆者たちは、知床横断道路沿いや遠音別岳～知西別岳稜線の森林植生を調査してきて(斎藤、1983、1985)、ハイマツ群落の構成、なり年、年伸長量などに関心をもっている。今回、1986年9月21日に、斜里岳に登る機会を得て、わずか1ヶ所であるが、ハイマツそう林を調べたので報告する。

## 調査地の概要

調査地は、斜里岳(1,544m)の南西方向にある熊見峠(1,253m)であり、登山道に沿った、北々西斜面(尾根)に設定された。

ここは風が強く、ダケカンバ帯上部をこえ、ハイマツ帯となっていて、伏生するハイマツそう林

中に、ダケカンバ、ナナカマド、ウラジロナナカマドなどが点生する場所である。

地質的には、現世の西峰火山噴出物である、輝石安山岩からなる(杉本ほか、1959)。地形的には、 $10^{\circ} \sim 20^{\circ}$ の緩い、やや凸斜面である。

## ハイマツ・コケモモ群落

ハイマツそう林の中で、代表的とみられた、ハイマツ・コケモモ群落を、 $1\text{ m} \times 17\text{ m}$ の帯状区で調査した(図-1)。

そう林の高さは、100cm前後であり、ハイマツは長く伏生していた。林床では、ハイマツの落葉の上に、スギゴケ類がやや密に生育していた。

林床植生は、木本が優占し、とくにコケモモが高い被度を示し、タカネナナカマド、キバナシャクナゲの小群もみられた。草本では、ゴゼンタチバナ、イワノガリヤスが高い頻度を示した(表-1)。

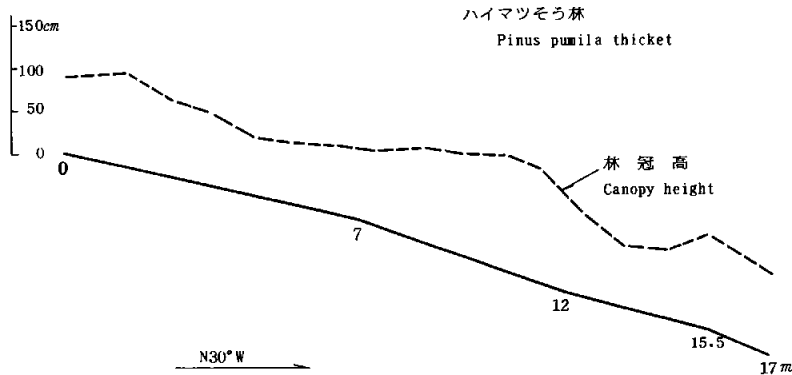


図-1 ハイマツ・コケモモ群落の帯状区(熊見峠、Belt No.1)

表1. ハイマツ・コケモモ群落の帯状区 (熊見峠、Belt No.1)

種	Species	距離 Distance(m)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	
木本	Woody plants																			
ハイマツ	<i>Pinus pumila</i>	被度 Coverage	C	5	5	4	5	5	5	5	4	5	5	5	4	3	4	5	5	4
		高さ Height (cm)		95-115	85	65	80	110	120	135	90	70	115	105						
コケモモ	<i>Vaccinium vitis-idaea</i>		C	4	4	3	4	4	4	2	2	3	1	3	4	3	2	2	3	
クロウスゴ	<i>V. ovalifolium</i>		+	.	.	.	+	+	+	.	+	.	.	.	.	2	2	1	.	
タカネナナカマド	<i>Sorbus sambucifolia</i>		+	2	2	+	1	+	.	.	.	.	.	4	1	.	.	.	1	
キバナシャクナゲ	<i>Rhododendron aureum</i>		.	.	.	.	.	.	+	3	3	1	1	1	.	1	.	.	.	
コガネイチゴ	<i>Rubus quedatus</i>		.	.	.	.	.	.	+	+	+	+	+	+	.	+	+	+	+	
ウラジロナナカマド	<i>Sorbus matsumurana</i>		.	.	.	.	.	.	+	3	.	.	.	.	.	.	.	1	2	
オオバスのノキ	<i>Vaccinium smallii</i>		.	.	.	.	.	.	+	1	+	.	+	.	+	.	+	+	.	
ダケカンバ	<i>Betula ermanii</i>		.	.	.	.	.	.	.	.	.	1	+	2	.	1	.	.	.	
ナナカマド	<i>Sorbus commixta</i>		.	.	.	.	.	.	.	.	.	.	.	1	.	.	.	.	.	
イソツツジ	<i>Ledum palustre var. diversillosum</i>		.	.	.	.	.	.	.	.	.	.	.	.	+	2	.	.	1	
ツルツゲ	<i>Ilex rugosa</i>		.	.	.	.	.	.	.	.	.	.	.	.	.	.	+	1	+	
マルバシモツケ	<i>Spiraea betulifolia</i>		.	.	.	.	.	.	.	.	.	.	.	.	.	.	.	+	+	
草本	Herbs & grasses																			
ゴゼンタチバナ	<i>Cornus canadensis</i>		+	.	+	+	+	.	+	+	1	1	+	+	2	+	+	2	+	
イワノガリヤス	<i>Calamagrostis langsdorffii</i>		+	+	+	.	.	.	.	+	+	+	2	+	1	+	1	1	2	
スゲ属の1種	<i>Carex sp.</i>		.	.	.	+	.	.	.	.	.	.	.	.	.	.	.	.	.	
スギコケ類	Moss		3	3	3	3	2	3	4	3	3	4	3	3	3	2	2	4	4	

ハイマツの球果のなり年

そう林の林冠をなす枝や幹で、球果のつき跡 (Cone-scars)を観察し、ハイマツのなり年と不なり年を推定した (表-2)。

それによると、わずかに2本の観察であるが、おおよそ2年に1回の結実 (隔年結実) である、ということが出来る。1年球果の存在から、1987年はなり年 (豊作年) である、と予想される。

ハイマツの幹の年伸長量

ハイマツの幹の年伸長量を、枝や芽鱗の跡から測定した。

第1の幹では、斜上した部分について、79cmの長さで26年生であった。年伸長量は、わずかに2~5cm (平均3.04cm) にすぎなかった。

第2の幹では、同じく斜上した部分で、63cmの長さで26年生であった。これの年伸長量は、さらに短かく、1~6cm (平均2.42cm) にすぎなかった (図-2)。

これらから推測すれば、長さが2~3mのハイマツの幹は、少なくとも100年を経ている、ということが出来る。

表2. ハイマツ球果のなり年 (熊見峠、Belt No.1)

	1987	86	85	84	83	82	81	80	79年
No.1	○	×	○	×	×	○	×	○	○
No.2	○	×	○	×	△	×	○	×	○

○:なり年 Bearing year. ×:不なり年 Off year.

要約

斜里岳の熊見峠におけるハイマツそう林の調査結果は、次のように要約される。

1. ハイマツそう林は、高さが100cm前後であり、林床にはコケモモが優占する。
2. ハイマツの球果は、ほぼ隔年結実であり、1987年はなり年である。
3. ハイマツの幹の年平均伸長量は、わずかに2.5~3.0cmである。

文献

安座間孝之・関本律子・高橋京子・白石 彰・葉師川由紀子、1985. 斜里岳における植物の垂直分布. 早稲田生物, 28: 19~23.  
伊藤浩司ほか、1982. 北海道植生図 (60万分の1) および概説書. 1葉+32pp., 日本造船振興財

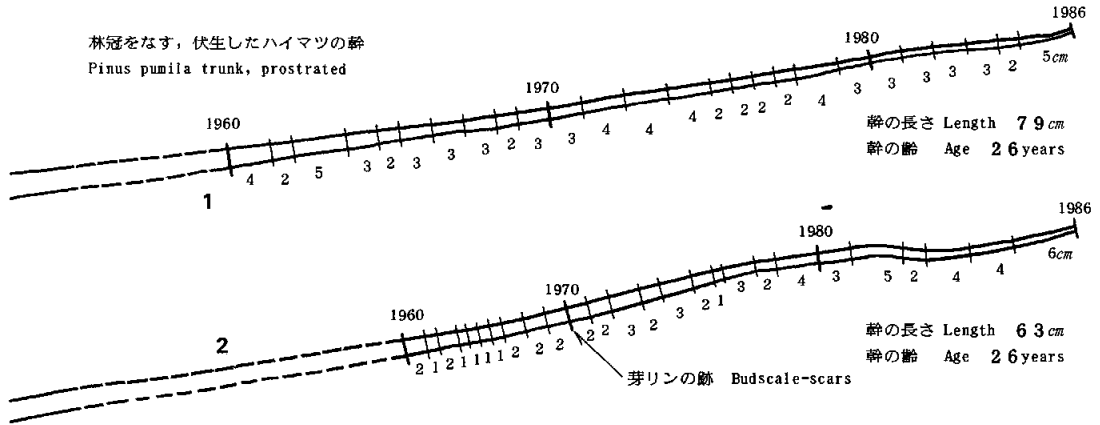


図-2 ハイマツの幹の年伸長量 (熊見峠、Belt No.1)

団、東京。

川代善一、1963. 斜里岳の高山植物. 北見林友、  
129: 1~11.

斎藤新一郎、1983. ハイマツ種子の発芽と動物に  
よる隠匿貯蔵との関係について. 知床博物館  
研報、5: 23~40.

——、1985 ハイマツを中心とした遠音別岳  
~知西別岳における高山植生について. 環境  
庁自然保護局編「遠音別岳原生自然環境保全  
地域調査報告書」(印刷中)。

杉本良也・長谷川潔、1959. 5万分の1地質図幅  
「斜里岳」および説明書. 1葉+42pp., 北海  
道開発庁.

### Summary

At Kumami Pass (alt.1,253m), southwestern  
ridge of Shari Volcano (alt.1,544m), a thicket of  
Japanese stone pine, *Pinus pumila*, was investiga-  
ted on September 21st of 1986.

The results studied are as followed.

1. The thicket was about 100cm in height and the floor was covered mainly by *Vaccinium vitis-idaea* (Fig. 1 and Table 1).
2. The cone production of the pine has been alternate year bearing and 1987 will be bearing year (Table 2).
3. Annual growth in height or length of the pine trunk were only 2.5-3.0cm (Fig. 2).

On the forest vegetation of Mt. Shari(1) -*Pinus pumila* thicket at Kumami Pass.

Shin-ichiro Saito<sup>1</sup> and Isao Matsuda<sup>2</sup>

1. Hokkaido Forest Experiment Station, Bibai, Hokkaido 079-01, Japan.
2. Shari, Hokkaido 099-41, Japan.

